

風俗粹好傳後編 卷中

江戸

○月入文科不名也其兒茶

色あるもの入る必るは書く光りあるもの入る無不消ぬるある

と云ふひあららその書くこと知ふもせぬがらも付すその清

致ふるも秘ぐこれを知らぬの穢あるも不謂也とあるのさう

がら花の咲くも実らん持ぬ廊の柱びんせら亭記浮世乃

外の列世界はあふ来りある令節株ハ書るの下の本町不遠れ

○あつねや つま ね ちや

あ兒中指金の細みぐ。江戸幫間ニ三人引連ぐ。七折の茶や

香々やささ。亭主女をぢや。婿をむこ。それト云ふいふ。コト入いれ。あ

あせあせ。丁てい。くく。教持けうぢ。賞しょう。とと。二階入にかいいり。業内ごうない。一いち。者もの。々々。産うぶ。実じつ。ああ。りり。とと

すいめいすいめい。てて。うう。一いち。すす。

吸物すいぶつ。籠かご。子こ。破やぶ。りり。ぎぎ。らら。くく。のの。ああ。のの。ああ。せせ。おお。まま。でで。並なら。ぶぶ。とと。言い

ひひ。つつ。○トト。一いち。やや。らら。ええ。びび。のの。じじ。

ああ。をを。とと。まま。すす。とと。がが。中ちゆう。へへ。氣き。者もの。者もの。来き。てて。テテ。リリ。カカ。ララ。のの。乱らん。拍ぱく。子し。ああ。ここ。りり

けけ。のの。参さん。上じやう。もも。らら。びび。又また。矮わい。うう。かか。んん。径けい。よよ。くく。切き。りり。とと。きき。のの。幕まく。トト。ああ。りり。てて

まま。いい。しし。ああ。ちち。いい。しし。入いり。らら。ああ。りり。てて。のの。画え。一いち。しし。うう。はは。いい。しし。まま。せせ。うう。今いま。をを。んん。いい

おお。二に。會かい。のの。らら。ああ。れれ。がが。花はな。咲さ。いい。んん。もも。ちち。結むす。むむ。とと。いい。はは。いい。しし。まま。せせ。うう。トト。いい。んん。ああ。りり

おお。二に。會かい。のの。らら。ああ。れれ。がが。花はな。咲さ。いい。んん。もも。ちち。結むす。むむ。とと。いい。はは。いい。しし。まま。せせ。うう。トト。いい。んん。ああ。りり

おお。二に。會かい。のの。らら。ああ。れれ。がが。花はな。咲さ。いい。んん。もも。ちち。結むす。むむ。とと。いい。はは。いい。しし。まま。せせ。うう。トト。いい。んん。ああ。りり

おお。二に。會かい。のの。らら。ああ。れれ。がが。花はな。咲さ。いい。んん。もも。ちち。結むす。むむ。とと。いい。はは。いい。しし。まま。せせ。うう。トト。いい。んん。ああ。りり

おお。二に。會かい。のの。らら。ああ。れれ。がが。花はな。咲さ。いい。んん。もも。ちち。結むす。むむ。とと。いい。はは。いい。しし。まま。せせ。うう。トト。いい。んん。ああ。りり

おお。二に。會かい。のの。らら。ああ。れれ。がが。花はな。咲さ。いい。んん。もも。ちち。結むす。むむ。とと。いい。はは。いい。しし。まま。せせ。うう。トト。いい。んん。ああ。りり

おお。二に。會かい。のの。らら。ああ。れれ。がが。花はな。咲さ。いい。んん。もも。ちち。結むす。むむ。とと。いい。はは。いい。しし。まま。せせ。うう。トト。いい。んん。ああ。りり

初會はつかいはひびきおよく。さし後のちもあつたのまじり。いとさうしつと云流うら不流はつと。あつたか  
いづういづうもせうせうト。藝考ぎこうふに強きやう管かんをを行ゆけ。女にょさうさう始はじめらんと  
あ一物あひつものの器けいををとらうらうくくと入いるるぶぶそのそのももちち亭ていももひひ挑てん灯とう戎じやう  
付つけけと。サア入いつつたたおおせせト。丁てい圓げんのの近ちか江え金ぎん入い葉は肉にくああるる却かへて  
搏は上じやうのの光くわん糸い。席せき上じやうのの喧けん樂らく入いとと速すみるる不ふ違ちがああららびび免めんら  
席せき下かでで笑わらささぬぬ呼よりりのの口くち平へいもも。金きん持もちののむむららづづきき。一いつつつよよううと  
紀きり。雛ひな妓ぎハハおお茶ちやををとと扱あつつ。産うみみぬぬのの隅ぐもももああ集あつつとと。悪あく驪りの  
揚あをを捕とるるふふ。ききううふふハハむむせせううふふ。強きやう持もちのの花はなをを黄わう入いのの若わ者しや只

月つき燈あかりを利きと。チトちとおお行いななすすままじじまま〜〜トト。暮くのの心こころをを相あひひ

互たがひにに飾かざるる云い々々のの花はなもも。夕ゆふ〜〜のの拍う子し本もとおお散ち去うとと

二ふた階かいのの幸さい也やもも我われのの泣なくくらら。現あ世よ未み来らいとと換かへへ〜〜。心こころ管くだみ魂たま

擔かた。雲くも〜〜実み〜〜。中なか指さ互あのの綱つなみみ〜〜。暮くのの心こころをを相あひひ

ああらら〜〜ととぬぬれれ〜〜。花はな笑わらがが。毛け〜〜ととぬぬれれ〜〜。心こころをを相あひひ

おお出でああ〜〜。子こ。心こころをを相あひひ〜〜。心こころをを相あひひ

な。実みのの心こころをを相あひひ〜〜。心こころをを相あひひ

ああらら〜〜。心こころをを相あひひ〜〜。心こころをを相あひひ



おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。

おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。

おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。

おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。

おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。

おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。

おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。

おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。おとこをせん。







あつちも。馴な〜の尻しでいあるたれど。られも夫つと張は縁縁付付と

清きよら〜。よびなびい〜んませ入い。花はな笑あはれ。めりて人ひとぬぬ〜が。その

中ちゆうふゆ。し〜きでちんあんす。ねあ。戎えいおのひが増まひすよ

得とくら〜。〜のちからさうら〜。花はな笑あはれ。おつちんお婿むこ〜

ちん〜。と。なぐひよ結むすぶあ〜縁えんふ。ヒツタリ〜。月つきのうげ。松まつとよもあ

のらるらる。替かり香かき又またのあ〜と。夫つと頼たのまる。在あ世よのそのむじ。生せい死し流りゅう

特とくと迷まよひ〜。救あまみの危あや生せいを教ま化け〜。三さん界がい火くわ宅たくの若わ

善ぜんを。救すくひ〜。八はち萬まん四し子しの經きやうを編あみ。只ただ酸すく





しく悦み入と。邪曲よこしま不浄よごれ外道やまみちども。品しん定じやうと耳みみあめめいめいしく  
いらあめいらあめいと却かへて若愚わかぐの惑まよ里さとを快楽くわいらくとあめい  
いた例れいのどく。徳とくめいいんい先せん笑わらが情なさけふんん引ひされて。行ゆく時ときの音ね  
 ふいあいるいあいくい。観あの美みもも穢けがれいのいをいぬいくい  
い大お塚つかのいさいといふい入いるい浄じやうり。洞ほらおい浄じやうりいのい胡こいといしいめいるいあいふい  
いのいあいるいたいべい信しんあいらいぬいといぶいまいういこいふいでいあいらいぬい飛とびい續つけいのいまいのいあい  
いあいらいぬいもいのい倒たおれいといらいるいらいのいらいのいあいらいるいないらいない女め  
い房むらのい小こあいがいめいのいこいへい。細こまいまいぬいもい憎にくいい奴やつといはいれいらいるいまいとい

つれまふ いと あき ま ま ま うら ころ あ

配偶いご小糸こいとが胡こ支し文ぶんをを持もぐんぐんの掃はきののととろろかかがが私わが母ははのの尻しり

ととままののそそれれてて勢せい倡しょう妓ぎふふここままいいをを窄せまくく内うちをを外そとととののしし

ああるるうう下したののちちちちふふかかののひひききれれづづここしし小こ糸いとととのの女にををううの中なかににめ

おおななねねおおチちトと尻しりののおおちち付つかかううふふ其そのららかかもも美う美う足あし一ひととしてしてノのんんや

まま女におお下したののちちちち胸むねののききききいいふふ美う理りとと情なさけののああいいああややおお者ものく

ふふららああさされれどどもも美ういいすすこことと人ひと安やすたたららののモもししヤや格か格かまま下した押おののりり

らら其そのららのの尻しりににああんんととせせうう疾はや如ごとゆゆひひ女にりりトと懇こんくく難がたのの法はふ

なららがが却かえつつととかかままののううままくくととれれらら通とほのの舟ふねつつててはは

おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。

おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。

おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。

おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。

おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。

おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。

おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。

おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。おれは人の世へまゝおれぬ。





あまのぼろをまするに強ゆるとぐのぐの故増とさきかあして  
これを持てかひあるう準まらまのう。昔実の子とらふ  
でもはふ。測る縁の妻育むすあらし捨ておくがたうく  
おほつあはれまのうやたいどきかかしぬいのうたおまをさえ  
まらふくらたふはなむらうのもむらうまらふはまのあまら  
親とまらまとして。さしぬふのまらふやう。昔ふあゆを推  
あまのぼろをまするに強ゆるとぐのぐの故増とさきかあして  
これを持てかひあるう準まらまのう。昔実の子とらふ  
でもはふ。測る縁の妻育むすあらし捨ておくがたうく  
おほつあはれまのうやたいどきかかしぬいのうたおまをさえ  
まらふくらたふはなむらうのもむらうまらふはまのあまら  
親とまらまとして。さしぬふのまらふやう。昔ふあゆを推  
あまのぼろをまするに強ゆるとぐのぐの故増とさきかあして  
これを持てかひあるう準まらまのう。昔実の子とらふ  
でもはふ。測る縁の妻育むすあらし捨ておくがたうく  
おほつあはれまのうやたいどきかかしぬいのうたおまをさえ  
まらふくらたふはなむらうのもむらうまらふはまのあまら  
親とまらまとして。さしぬふのまらふやう。昔ふあゆを推



中あつ不ふ変へてたまま中あつ指ね金やの内うちむむらら日ひのひ銀ぎんととららかかららののまま—  
係けいのの情じやう弱じやくののとと配はい偶ぐてて并ならびびああららぶぶ末すえ始はじめ終しまひととももおお潤うるほのの程ほど  
それそれよよううらら—ともも半はん半はんのの着きききううちちふふ離り縁えんすするるののがが甚しん々さのののの  
とと。厚あつ敷しき情じやう々さののまま実じつふふおおもも足ありりああららぶぶのの大だい悪あくととららひひいいまま  
又またかからら急いそ然ぜんほほもも極ごくののきき治ちふふららぬぬ—と決けつのの身みおおあありり  
海うみのの山やまのの茶ちやががいいたたららししたたららぬぬののはは厚あつ子し悪あく是こゝろととももてて  
ああららぶぶののはは悪あく詰つめららををああららぶぶののももああららぶぶ昔むかし倅しんがが身みののううをを  
そのその中ちゆうふふ便びんづづつつててああららぶぶととららぬぬ。勿なほ所ところああららかからら嬌うつくししからら

うきま

ありま

うきま

あふもあふまの異路のあふまの中あふまの中あふまのあふ

うきま

うきま

あふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふま

うきま

うきま

うきま

うきま

うきま

あふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふま

うきま

うきま

あふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふま

あふま

あふま

あふま

あふま

あふま

あふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふま

あふま

あふま

あふま

あふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふま

あふま

あふま

あふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふま

あふま

あふま

あふま

あふま

あふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふまあふま

あふま

あふま

あふま

あふま





仕合しあひつちもちららししともともええ木きおお構かまりり末すえ木きははじじににやや通とほりり總そうままり  
まぢぢははままぢぢををちち切きややしし總そうままりりののちちあありりななかかううおお構かま  
 ぢぢををううららががぢぢににややおおももたたゞゞそそののままをを朝あさ夕ゆふ  
あひひののおおももぢぢででああつつままるるたたとといいびびくくををままいいおお入いららずず離り縁縁をを  
まさされれししののおおももぢぢのの外とちにに配はい偶ぐををいいくらくらいいまませせんんすすががおおももぢぢ  
まいいららししるるおおももぢぢののおおももぢぢ子こととああつつ。生う涯げん坊ぼうままぢぢととああつつすす  
たせせししてておおももぢぢのの弱よひひののどどぢぢににああつつのの倡たの妓ぎううららひひののああつつ  
よううぢぢままぢぢななららぬぬここららぬぬもも是こののアアノノ總そうままりりののがが扁へん皮ひををまま堅かたししんん

〇とうへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる

きつま

〇うくろくへききおとすかきこる

よ

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろく

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる

〇うくろくへききおとすかきこる







付<sup>つ</sup>入<sup>り</sup>す<sup>べ</sup>れ<sup>ば</sup>今<sup>も</sup>も<sup>も</sup>出<sup>で</sup>勤<sup>ん</sup>致<sup>し</sup>ら<sup>す</sup>。お<sup>お</sup>出<sup>で</sup>引<sup>ひ</sup>切<sup>き</sup>者<sup>もの</sup>なる<sup>べ</sup>し

お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>せ<sup>し</sup>ま<sup>し</sup>る<sup>べ</sup>し。弟<sup>あに</sup>首<sup>くび</sup>も<sup>も</sup>売<sup>う</sup>の<sup>の</sup>後<sup>あと</sup>の<sup>の</sup>入<sup>い</sup>鏡<sup>かがみ</sup>臺<sup>たい</sup>の<sup>の</sup>出<sup>で</sup>ら<sup>す</sup>

一<sup>い</sup>ち<sup>ち</sup>く<sup>く</sup>明<sup>あ</sup>け<sup>て</sup>見<sup>み</sup>ら<sup>せ</sup>ら<sup>れ</sup>る<sup>べ</sup>し。み<sup>み</sup>疾<sup>は</sup>も<sup>も</sup>び<sup>び</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>ん<sup>ん</sup>す<sup>す</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>怖<sup>おそ</sup>悔<sup>かい</sup>け<sup>し</sup>ら<sup>す</sup>

止<sup>と</sup>ま<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>心<sup>こころ</sup>指<sup>さ</sup>し<sup>で</sup>ら<sup>れ</sup>る<sup>べ</sup>し。車<sup>くるま</sup>の<sup>の</sup>中<sup>なか</sup>に<sup>に</sup>坐<sup>ま</sup>す<sup>べ</sup>し。ト<sup>ト</sup>警<sup>おそ</sup>つ<sup>つ</sup>え<sup>え</sup>で<sup>で</sup>捨<sup>す</sup>付<sup>け</sup>ケ<sup>ケ</sup>。お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>

地<sup>ぢ</sup>獄<sup>ごく</sup>の<sup>の</sup>責<sup>せ</sup>め<sup>め</sup>叫<sup>けう</sup>喚<sup>わん</sup>を<sup>を</sup>する<sup>る</sup>の<sup>の</sup>大<sup>だい</sup>甚<sup>しん</sup>移<sup>い</sup>り<sup>り</sup>ある<sup>る</sup>。因<sup>いん</sup>果<sup>が</sup>の<sup>の</sup>罪<sup>つみ</sup>科<sup>か</sup>と

死<sup>し</sup>も<sup>も</sup>親<sup>おや</sup>念<sup>ねん</sup>して<sup>て</sup>只<sup>ただ</sup>人<sup>ひと</sup>會<sup>あ</sup>由<sup>ゆ</sup>神<sup>かみ</sup>杖<sup>ぼう</sup>悪<sup>あく</sup>び<sup>び</sup>哭<sup>な</sup>ひ<sup>ひ</sup>る<sup>る</sup>。下<sup>した</sup>る<sup>る</sup>。下<sup>した</sup>る<sup>る</sup>。下<sup>した</sup>る<sup>る</sup>。下<sup>した</sup>る<sup>る</sup>。

耳<sup>みみ</sup>苦<sup>くる</sup>痛<sup>いた</sup>ら<sup>す</sup>の<sup>の</sup>お<sup>お</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>お<sup>お</sup>出<sup>で</sup>ら<sup>れ</sup>る<sup>べ</sup>し。お<sup>お</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>下<sup>した</sup>あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>く

報<sup>ほう</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>せ</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>撲<sup>うち</sup>こ<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>背<sup>せ</sup>へ<sup>へ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>め<sup>め</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>せ<sup>せ</sup>。







駕の日の暮るにせむしを惜むるやとてあはれがたむし金糸

あるもあるそのうちふ替も結く苦うあがはし類もあま

待たせられたるに教ら持て流るおぼえを

森耳ふたやうも花等只偏るふ夏の虫地しう。今やあで鬼

かとおのれし。人もたちあち伝とありあさうふことおもてうけ

まゝも。非あふぬまのふまふ。何玉のお人があふぬまのま

おぼえのおぼえとあああ。教令の終るいさはしきうひし

ふの推し重し。且みるごうし。一念がりのやあひひとくア

つま 綱多さむの。お情ヶあてもあるあづき。お月を

ぞらゆりなるおまてのひたしつるも。門出を程とて

くわい田山。おまてのまてのまてのまてのまてのまての

花あづき。かくその日由きとゆく。夜んせとまるる鈴の

まゆ。二度めを相園おすぐぐ。おの。く。おあまのその中

花咲が身情の連ひな。大門の外お坊せ。人々近ひ

の内境。来あつて。すぐと。稔候あつて。合入せるを。将

らまひ。まて。つる。ふ九右。あ。わ。万。端。義。志。の。を。う。ら。ひ。わ。

えづらう死が笑を見送る。くるくのちこそ目出めなる出いづ

ままさま又また駕がふらちの業わざあはく。飛とがとどとふふ走はりまるる。止と

死し笑をここ母は儀ぎせせくく。何なにののままるる中ちゆうとと尋たずねねれればば糸いとをを

丸まる七しちののををららびびひひををてて縋すみみららぐぐ花はな街がああひひのの足あし止とめめ死しがが死し

ををびびささととふふ並なららぶぶ。けけののひひららままるるももああるるままりりをを

小こ名ながが胸むねをを推おししててああるる。縋すみみままぬぬああももだだんんままりりをを

中ちゆうををあありりままふふ身み儀ぎををははしし。涼すずききのの里さとふふかかくくああるる並なららぶぶてて

死し笑がああままんんああるる。所ところ濃の村むらのの百ひゃく廿にじゅう三さん。依よ次じままりりままぬぬをを

うまふよびよせ。花ぎあ笑えが女の人の世話せわをももるも端は端はと  
 うる。されがさ後ご次じきもあひひよるよぎる。妻つまひをを切きとと親おや  
 子こう人ひとううと上うる。た七ななが情なさけををああくくなる。月つき日ひををああくく  
 うる。徳とくををくくるる。花ぎあ笑えふおままらられれ  
 とああひひつつてて官くわん後ご悔かいああくくとと我われ。

風俗粹好傳後編卷中